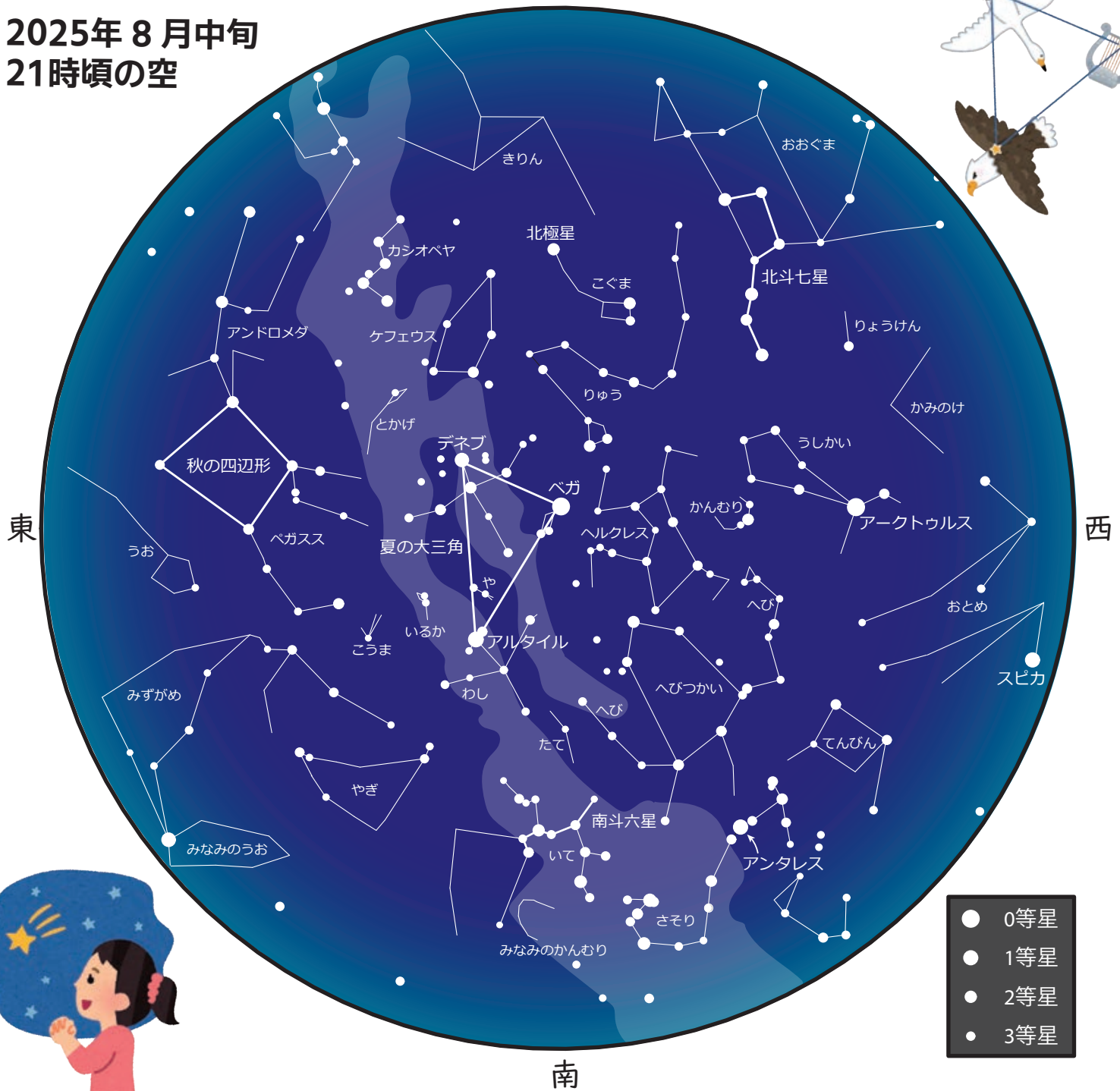


阿南市科学センター 8月の星空案内

北

2025年8月中旬
21時頃の空



夏休み真っ盛りの8月、夏の大きな三角を探す宿題もあるのではないのでしょうか。そんな夏の大きな三角はこの時期南の空高い位置で見つけることができます。夏の大きな三角のうち、一番明るく輝くのはこと座の一等星ベガ（約0.0等）、織姫星でもあります。天の川を挟んで対岸にある一等星はわし座のアルタイル（約0.8等）で彦星です。そして最後天の川の中にある大きい羽を広げた十字型の星座がはくちょう座でそこに輝く一等星がデネブ（約1.3等）となっています。また、北西の空にはひしゃくの形をした北斗七星が輝いていますが、それに対して南の空にはいて座の星の一部をつなげてできる南斗六星というひしゃくの形をした星の並びを見つけることができます。東洋では北斗七星は人の死を、南斗六星は人の生をつかさどっていると考えられています。

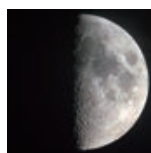
天体観望会のご予約はネットかお電話にて 【毎週土曜日開催！】

阿南市科学センター

電話 0884-42-1600

<https://ananscience.jp/science/>

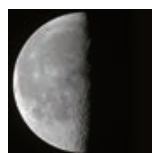
■ 8月の月の満ち欠けと惑星について



上弦
1日 / 31日



満月
9日



下弦
16日



新月
23日

8月の天体観望会で月が見える日時は？



8/2(土) 20時の回に観察可能



8/9(土) 21時の回に観察可能

水星：8月後半に夜明け前東のごく低空に見える。(19日西方最大離角)【約0.0等】

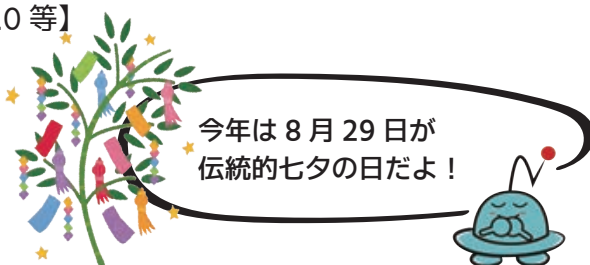
金星：夜明け前に東の空から昇ってくる(明けの明星)。【約-4.0等】

火星：日没後、西の低い空に見えるがすぐに沈む。【約1.6等】

木星：夜明け前に東の空から昇ってくる。【約-1.9等】

土星：前半夜から一晩中見ることができる。【約0.7等】

※惑星の等級は中旬頃の明るさ。水星のみ19日の明るさ。



■ 今月の天文現象

【ペルセウス座流星群が極大】

2025年のペルセウス座流星群は13日の5時頃にピークをむかえます。今年は満月から少し欠けた月となっており、空はとても明るいので、条件がいいとは言えなさそうです。しかし、明るい流星は見える可能性がありますので根気よく探してみましょう。そんな流星群は放射点から四方八方に流星が流れるため、いつでもどこで現れるか誰にも分かりません。観測のポイントは、しっかりと目を暗さに慣れさせてから、空が開けた場所で、空全体を見渡すことです。レジャーシートを敷いて寝転がりながらすると楽しく楽に観測できますよ。

夜とはいえ、夏真っ盛りなので外は蒸し暑くなっていると思います。こまめに水分をとって熱中症に気を付けながら観察を行いましょう。



図1: ペルセウス座と放射点の位置
(8月13日0時の夜空)

※図はステラナビゲータを用いて作成

■ イチオシ天体写真

【M16 わし星雲の“創造の柱”】

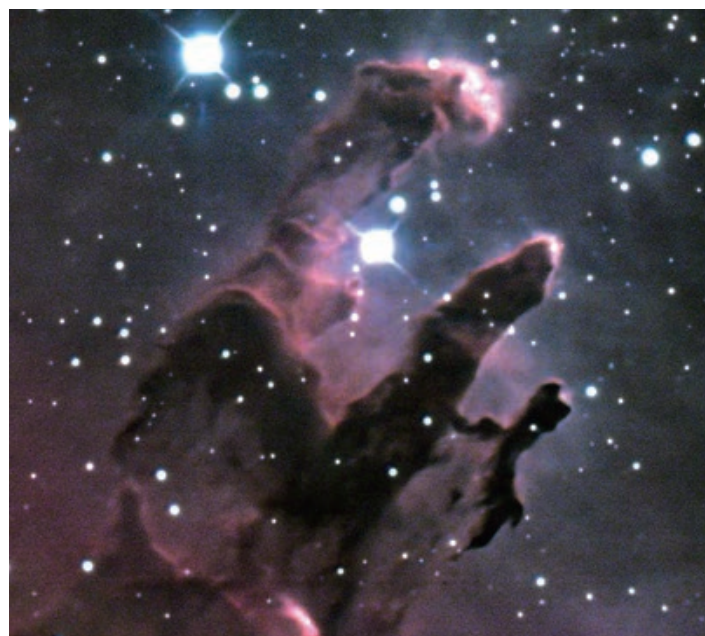


図2: M16 “創造の柱”のクローズアップ
(113cm + ASI294MC pro, 60s x22, Bin x2, Gain 120)

夏の代表的な天体である「わし星雲(M16)」の中心部には、「創造の柱」と呼ばれる細長い構造が存在します(図2)。この名称は、1995年にハッブル宇宙望遠鏡が撮影した印象的な画像に由来しています。この領域では、新しい星が活発に生まれていると考えられており、これまでに電波、赤外線、X線など、さまざまな電磁波を使った観測が行われてきました。また、M16にはこの星雲で誕生したとされる散開星団があり、望遠鏡では星雲そのものよりも、この星団の方がはっきりと観察できます。